OB会だより

第56号

〈発　行〉
京都外国語大学
能楽部OB会広報部

祝　京都外国語大学能楽部創部六十周年

平素より、京都外国語大学能楽部ＯＢ会の運営にご理解とご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

令和という新しい時代を迎え、来年度京都外国語大学能楽部は創部六十周年という大きな節目を迎えることとなりました。六十年もの間、私たち能楽部員にご指導頂いております橋本儀道先生、そして忠樹先生に心から御礼申し上げます。

六十周年を記念し「京都外国語大学能楽部創部六十周年記念祝賀会」を令和二年二月二十四日（月祝）に京都ホテルオークラにて行うことになりました。ＯＢ会会員の皆様、現役時代を振り返るとあんな出来事やこんな出来事…様々な楽しい思い出があることでしょう。世代を超えて、仲間と語り合い楽しいひとときを過ごしませんか?ご参加をお待ちいたしております。（詳細は7頁と8頁です）

第五十六回外大能

来たる十二月八日（日）河村能舞台におきまして第五十六回「外大能」が開催されます。能楽「羽衣」、舞囃子「鶴亀」「安宅」、仕舞数番に加えて、ＯＢ会からも出演があります。今年のＯＢ、ＯＧ連吟は「紅葉狩」です。年末のお忙しい時期とは存じますが、皆様是非足袋をご持参の上、河村能舞台へお出かけください。

創部六十周年を前にして



ＯＢ会会長　島谷 直見

令和二年、能楽部は創部六十周年を迎えます。

皆様の能楽部での四年間がお互いに繋がり合い、六十年の確かな年月を築いて参りました。年代・時代背景は違っても、能楽の世界への憧れの気持ちは不偏であると思います。

今年も例年の如く、十二月八日に外大能が開催されます。四回生の集大成としての能、今年の演目は「羽衣」です。鶴亀・安宅の舞囃子、現役・ＯＢ仕舞。五十六年間一度も途切れる事なく、脈々と継続されてきた『外大能』…。お忙しい事とは存じますが、是非とも河村能舞台へお運び下さいます様お願い致します。

そして来年二月二十四日には、『創部六十周年祝賀会』を京都ホテルオークラにて開催致します。祝賀会には、一人でも多くのＯＢの皆様に参加して頂く事を願い実行委員会を立ち上げ只今準備中です。年内には、案内状を皆様のお手許に送付する予定です。

今年もこの「ＯＢ会だより」を皆様のお手許にお届けできました事を、会長として大変嬉しく思っています。最新の能楽部の様子、ＯＢ会活動の情報をこの誌面を通じて、皆様の良きクラブ活動の思い出をさらに深く、より鮮明にして頂く事を願い乍ら、広報部員を中心に毎年継続して発行して参りました。

この会報誌によって皆様の能楽部への思いが一つになります事を願い乍ら、今後も京都外国語大学能楽部ＯＢ会へのご協力とご支援を賜ります事を心より願っています。

ＯＢ会の諸先輩方へ

部長　木町莉子



少し気は早いですが、創部六十周年おめでとうございます。今年度の部長を担当している木町です。

また、昨年度の「第五十五回記念外大能」では、橋本礒道先生、忠樹先生、並びにＯＢの先輩方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

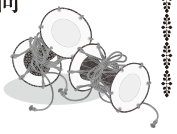
さて、来年度は「創部六十周年」を迎え、そして昨年度には「記念外大能」が開催されました。このような節目の時期に、現役の部員であるということに、驚きと責任を感じています。次回からの記念行事も〝無事に〟執り行われるよう、部員一同、精進して参ります！

第五十六回 外大能

今号のＯＢ会だよりは、来年の六十周年記念パーティの告知もあって、例年より早い発刊となりました。時期的には、まもなく番組が完成する運びなのですが、今回は現役の皆さんの曲目をご紹介致します。

令和元年十二月八日（日）
於 河村能舞台

和布刈	現役連吟	部員一同
羽衣	能楽	大垣　愛満
	舞囃子	藤原　万由美
鶴亀		金光　優衣
安宅	仕舞	高嶋　賢人
放下僧		木町　莉子
松虫	クセ	川田　崚登
清経	キリ	浜崎千紗代
杜若	キリ	太朗ベーカー
猩々	ＯＢ連吟	ＯＢ・ＯＧ
紅葉狩		



現役部員の外大能への意気込み

能「羽衣」への思い

大垣　愛満

今年の外大能で、能楽「羽衣」のシテを勤めさせて頂くことは、四年間の能楽部生活の最後を飾る大舞台であり、いわば集大成であると思っています。とても貴重な体験をさせていただくので、その覚悟をもって、そして楽しんで挑みたいと思います。

羽衣という演目は、私が一回生の頃、先輩が舞ったときに地謡を勤めました。同じ舞台に立つという意味で初めて能に関わった演目ですので、とても思入れの深い演目です。それを今回は私がさせていただくことをとても嬉しく感じます。

今回演じる羽衣の主人公である天女は、悲しいとき、嬉しいときの感情表現が謡にはっきりと出ているので、その感情の機微を表現できるように頑張ります。

舞囃子「鶴亀」への思い

藤原　万由美

毎年、外大能のために多大なる御支援をして頂き、誠に有難うございます。京都外国語大学スペイン語学科四回生の藤原万由美と申します。

私は、今年の外大能で舞囃子「鶴亀」を舞うことになりました。楽は中の舞と笛の音が異なり、聞きなれない音でタイミングを計りながら舞うのがとても難しいです。また、今まで足拍子があまり無い演目ばかり舞っていたので、長い足拍子がたくさん含まれている楽にとても苦労しています。しかし、コツをつかむととても楽しい演目なので、本番では皇帝らしい堂々とした舞ができるよう頑張りたいです。

ＯＢの先輩方に御迷惑をお掛けすることもあるかとは思いますが、今後とも御指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

新OB会員紹介



会員 No.166
山本梨恵

今年度からＯＢ会に入会させていただきます山本梨恵と申します。

兵庫県姫路市出身で、現在は神戸に住んでいます。

好きな食べ物はカスタードクリームを使ったお菓子です。特に固めのプリンが好きです。最近では、柔らかめのプリンの方がコンビニやスーパーでの取り扱いが多いため、固めのプリンを探すのが大変です。

実を言いますと、昨年度まで現役だったため、ＯＧとなった実感があまり湧きません。なぜなら部活動の時間や合宿で共に練習を行ったり、お稽古を受けたりした部員がまだ在籍しているからでしょう。

これからはＯＢ会の一員として、現役の方達をできる範囲内ではありますが、支えていきたい所存です。至らない点も多々あるかと存じますが、今後ともよろしくお願い致します。

第五十五回外大能開催記念 ＯＢ会から現役へ型付をプレゼント！

昨年十二月、第五十五回外大能が開催されました。この節目の会を記念し、ＯＢ会より現役部員へ、記念品として仕舞型付けを贈呈しましたので、贈呈時の写真と併せてご報告致します。現役時代、コピーをとって使った仕舞型付け、仕舞や地謡など日々のお稽古には欠かせないものです。気持ちも新たに、よりお稽古に励んでいただきたいと思います。



コラム

能ワークショップで こどもたちに接して

広報部　栗山藍

私が外大を卒業してからもう二十年近く経とうとしています。能楽部以外でお能に接する機会なんてあるのだろうか…なんて思っていたのに、人生不思議なものです。今、毎年夏に地元で行われている「能ワークショップ」で、こどもたちに仕舞を教えるお手伝いをしています。

十月中旬にＮＰＯ法人主催の「万葉薪能」というイベントがあり、そこに出演するこどもたちを募っているのです。こどもたちの発表が終わった後はプロの方による狂言、能が披露され、橋本忠樹先生にも度々ご出演頂いています。

お能って何？狂言や歌舞伎とどう違うの？大人でも答えられない人はたくさんいます。ですから、ワークショップでお能に触れる機会を得てもらえただけでも、とても価値あることです。お稽古の時間は、皆集中してまっすぐに取り組んでくれます。ひとつの事にひたむきになれる時間もまた、とても大事なことです。

そして、私自身、ワークショップでの貴重な時間を通じて、学生時代とはまた違ったかたちでお能の魅力に改めて気付かされ、それを伝えたいと考えるようになりました。

嬉しいことに毎年参加してくれるこどもたちが大勢います。私も彼らから学ぶことがたくさんあり、励みになっています。

コラム

令和ゆかりの地 太宰府を訪ねて

広報部　橋口 莉奈

「初春の令月にして、氣淑く風和ぎ…」万葉集に記載されている文で、太宰府で催された『梅花の宴』の場面を表しています。新元号・令和の出典として注目を集めました。八月、令和ゆかりの地として話題の太宰府を訪ねると、能楽ゆかりのものに出会うことができたので、ここで紹介いたします。

◆謡曲『老松』と太宰府天満宮

太宰府天満宮が舞台となっている謡曲が、『老松』です。菅原道真を慕って都から飛んできた飛梅（曲中では「紅梅殿」と呼ばれている）の伝説はご存知の方も多いと思いますが、その飛梅を松が追ってきた（追い松が転じて老松）という伝説もあるのはご存知でしょうか。曲中ではこの伝説が語られています。残念ながら現在の境内には老松はありませんが、飛梅は今も綺麗な花を咲かせるのだそうです。



太宰府天満宮の飛梅



太宰府展示館スタンプ

◆謡曲『藍染川』と蘇生碑

滅多に上演されないという『藍染川』。私は名前しか存じ上げなかったのですが、天満宮にほど近い光明禅寺の側にひっそりと石碑がありました。昔、藍染川に身を投げた女性を天満天神が生き返らせた、という伝説が記されています。謡曲『藍染川』は、この伝説を元に作られたのだそうです。元々は川幅の広い大きな川だった藍染川。今は小川となって石碑の側を流れ、その不思議な伝説を今に伝えています。

◆室町文化と九州国立博物館

天満宮からトンネルを通って博物館へ。『特別展 室町将軍』では、数々の文化が花開いた室町時代を代表する一つとして、能楽が紹介されていました。中でも目を引く能面は、世阿弥の子・元雅が、奈良の天河弁財天に奉納したと伝わるものです。面裏には所願成就円満の文字と年記が記されており、約六百年を経ても綺麗な状態で残っていることに感銘を受けました。



藍染川の蘇生碑

他にも政庁跡や資料館もあり、見所満載の太宰府。令和の時代、是非足をはこんでみてはいかがでしょう。



尉面

ＯＢ交歓会と第十一回花鏡の会「ゆかた会」開催！

八月十一日（日）にＯＢ懇親会と第十一回花鏡の会主催「ゆかた会」が京都洛北にある「しょうざんリゾート京都」で開催されました。

今年は現役とＯＢの交歓会も兼ねての開催だったため、現役とＯＢ合わせて二十名の参加となり賑やかな会になりました。

花鏡の会による仕舞、当日来てくださった方も交えての連吟「土蜘蛛」の発表の後、京都の日本庭園を見ながら、しょうざんのお料理を頂きました。

この日は最高気温が三十八度に迫る大変暑い日でしたが、遠方の方も来てくださり現役の方との交流もでき、とても素敵な会になりました。






ゆかた会












橋本忠樹先生ご子息和樹さんと能楽親子共演

名古屋片山定期能 百萬を観て

兵道伸子

地下鉄を出て、名古屋城のお堀を跨ぐ歩道橋に上がると桜の花びらがひらひらと舞っていました。

舞台が始まると、能楽堂の外で感じていた春が京の春に変わったように感じられ、自然と百萬という曲の中にはいっていきました。

学生時代にも百萬は何度か観た事はありましたが、今回は今までとは少し違った印象を受けました。それはたぶん自分が親子の親側になったからだと思います。悲しさと美しさ、喜びを一曲の中で見ることができました。歳を重ねるごとに新たな発見ができる能の不思議さ、面白さを感じました。能楽部とのご縁があったからこそ、このような体験ができました。

橋本忠樹先生、和樹くん、素晴らしい舞台を観せて頂き、ありがとうございました。

京都片山定期能 橋弁慶を観て

内田麻也

七月に行われた片山定期能で橋本忠樹先生と和樹君の能楽 橋弁慶を拝見しました。

和樹君の舞台は仕舞・能の子方と毎年殆ど見ているのですが、凛々しくて堂々とした姿に、とても立派だなと感激をした程です。

橋弁慶の終了後に外国人のお客様がロビーに居た和樹君を見つけて「ビューティフル！」と満足げに感想を伝えていた姿も印象的でした。

これからも一人のファンとして舞台を拝見出来ることを楽しみにしています。

橋本礒道先生ご一家 NHKラジオ番組 【FM能楽堂】にご出演！

素謡「鉢木」　平成三十一年三月十七日放送

ＮＨＫラジオ放送【ＦＭ能楽堂】に橋本先生ご一家がご出演され素謡「鉢木」を謡われました。お聴きになった方もいらっしゃるかと思いますが情景が浮かんで来てとっても良かったですよね。

放送後日、ラジオ収録時の興味深いお話を橋本礒道先生にお伺いしました。収録場所はＮＨＫ大阪で、金屏風（写真参照）がセッティングされたスタジオで行われたそうです。

礒道先生と忠樹先生は、三十年程前に素謡「草子洗小町」のラジオ放送に故 片山幽雪先生方とご一緒に出演されたとのこと。当時のことを懐かしそうにお話されていました。今回のようにご一家が揃われて素謡を謡われるのはとても珍しく貴重なのだそうです。

収録は最初に先生方お一人お一人の声出しチェックを受けられてから本番に臨まれたそうですが、何より素謡「鉢木」は通常一時間十五分程を要する曲なので、それを所要時間内に収める為に割愛する箇所等を念入りに打合せされたそうです。

収録の貴重な裏話を伺えて大変さが伝わって来ました。礒道先生、お話頂き有難うございました。



※忠樹先生がSNSでご紹介されたスタジオのお写真をお借りしました。

祝賀会のお知らせ

来る令和二年、能楽部は創部六十周年という大きな節目を迎えます。

橋本儀道先生、忠樹先生をはじめ、諸先生方、そして多くのＯＢ・ＯＧの皆様のおかげでこの長い歴史が築かれてきました。

人で言えば、おぎゃあと生まれて六十年、還暦ですね。新たな気持ちで、更なる歴史を創っていくスタートでもあります。

この素晴らしい節目を、共に祝おうではありませんか！

日々の忙しさで埋没してしまった、学生時代の思い出を呼び起こすいい機会です。普段なかなか会えない仲間と、昔話に花を咲かせませんか？きっと、一瞬であの頃に戻ることができると思います。

お忙しいこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加願います。現時点で詳細は決定しておりませんので、「こんなことを企画してほしい」などご意見がございましたら、どうぞご連絡ください。尚、案内状は別途、年内に送付いたします。

（8頁にも告知あります。）

創部四十周年記念祝賀会の思い出

唐木（須田）啓子

本当につい最近のような気がするのに…もう二十年も経っているのですね。ビックリです。

創部四十周年記念祝賀会が行われた時はちょうど春休み中でしたので、部長だった兵道伸子さん（旧姓 杉森さん）はホームステイのためイギリスに旅立ってしまっていて、副部長の私が現役代表をつとめとても緊張した事を真っ先に思い出しました。「洋服は何を着て行こう？」「お会いするのが初めての先輩もいらっしゃるけど、どんな会話をすれば良いのかな？」と本当に前日までドキドキしっぱなしでした。

お名前しか存じ上げなかった先輩方や昔顧問でいらっしゃった近松先生ともお会いして能楽部の歴史を感じるとともに、皆さん優しく話しやすかったことが強く印象に残っています。

現役代表として記念品の袴を島谷会長から受け取り、無事に役目を終えてホッとした事…写真を見ながらしばし思い出に浸ってしまいました。あれから二十年、こうして六十周年記念祝賀会が開催される事とても嬉しく思っています。



40周年パーティの一コマ

創部五十周年記念祝賀会の思い出

塚田智恵

今から十年前（平成二十二年二月十四日）に創部五十周年記念祝賀会が京都ホテルオークラにて開催されました。多くの大学関係者やＯＢ会員が集まり、盛大に創部五十周年を祝う会となりました。どんな会だったか、ちょっと振り返って見たいと思います。

オープニングは能楽師の先生方による「高砂」のご発声がありました。お謡いが会場に響き渡り、みんなで感動しました。鏡開きがあり、美味しいお料理を頂きながら歓談しました。余興としては、能楽部の歴史の詰まったスライドショー「能楽部五十周年の軌跡」、事前の打ち合わせなしで行われたトークショー、そして実行委員会が総力を挙げて練習していた寸劇。貫一お宮と歌舞伎の船弁慶の融合というドタバタ喜劇。白塗りの役者たちの熱演で大いに盛り上がりました。とても盛大な楽しい会だったと思います。

さて六十周年を祝う会が来年二月二十四日に同じく京都ホテルオークラで行われます。また和やかな楽しい会になればいいなあと思っています。



50周年パーティ会場案内板
（京都ホテルオークラにて）

祝賀パーティーのご案内

京都外国語大学能楽部創部60周年記念

どうも、招福太郎です。
50周年パーティーでお会いしてから、
早10年が経ちました。
お変わりありませんか？

時代は令和を迎え、
能楽部は創部60周年
を迎えます。

10年の間に、
はじめましての方も
たくさんいますね！
どうぞよろしくお願いします！

当日は多くの方に
お会いできることを
楽しみにしております。

今回は“赤いちゃんちゃんこ”になりました。



満員御礼

満員御礼

年内に案内状を発送いたしますので
同封する返信はがきで必ずお返事ください。

京都外国語大学能楽部創部六十周年記念祝賀会　実行委員会一同

日時：令和2年2月24日（月祝）正午～

場所：京都ホテルオークラ（京都市中京区河原町御池）
電話（075）211-5111）

＜関連ホームページのご案内＞

『観世流能楽師 橋本忠樹先生のHP』➡ **http://www.hashimoto-tadaki.jp/**
能楽部講師 橋本忠樹先生のご活躍は勿論ですが、能楽に関する様々なお話が紹介されています。

京都外国語大学校友会　能楽部　検索
京都外国語大学校友会の能楽部紹介
http://www.kufs.ac.jp/koyukai/move/club/nougaku/
校友会のホームページで能楽部の活動報告が見られます。是非、アクセスしてみてください。

会計局から会費納入のお願い

◎一般会員　　8千円
◎夫婦会員　　1万2千円

前年度分まで未納の方は本年度分と併せてお振り込みくださいます様お願い申し上げます。

［振込先］
☆郵便口座
００２８０－１－５２０７６
☆加入者名
京都外国語大学能楽部ＯＢ会

編集後記

今号は「六十周年記念祝賀会」の開催をいち早くお知らせするため、例年よりも約一ヶ月早い発行となりました。広報部内でもバタバタとしましたが、「困った！」と思った時必ず助けてくれるメンバーがいてくれて、今号も盛り沢山の内容になりました。

また、発行時期が早いため原稿の期限も短めに設定せざるを得ませんでしたが、原稿執筆をお願いした皆様は快く引き受けてくださいました。本当にありがとうございました。

六十周年記念祝賀会は令和二年二月二十四日の開催になります。皆様是非ご出席下さい。その際、ＯＢ会だよりについてのご感想やご意見などなんでもお聞かせ頂けますと嬉しいです。

《ＯＢ会だより第56号》
◎編集責任者　唐木啓子
☆編集委員／藤原敏起・土井智代・鴨川愛子・栗山　藍・塚田智恵・橋口莉奈
◎発行責任者　島谷直見